暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第九七号〜

冬至　十二月二二日

内宮前宇治飾り

今年もあとわずかとなりました。おかげ横丁では恒例の「歳の市」が開かれています。赤福本店別店舗の屋台では、新年を迎えるための「内宮前宇治飾り」がお目見しました。内宮前の宇治地区に古くから伝わる、門松と「こうじんさん」、「とんぼ」。もともとはおかげ横丁の神路屋あたりに住んでいた森田和夫さんが手作りするものです。

門松は松飾りともいわれ、歳神さんを迎えるための依代がルーツと考えられていますが、今ではかつて江戸城の各城門に飾ったスタイル、三本の竹に松を添えて、根元を割り木で囲った形がよく見られます。しかし、本来は様式もさまざまであったといいます。

森田さんの作る松飾りは、玄関脇にくくりつける形で、玄関の右手に黒松（男松）、左手に赤松（女松）、それに榊、アセビを組み合わせた素朴なものです。昭和七年生まれの森田さんは、おばあさんから作り方を教わり、材料は高麗広の人から神路山のものを分けてもらっています。昔はどの家もこの松飾りを玄関に飾り、注連縄は細い縄をなって、足を五つと紙垂をつけただけの簡素なものを、あとは勝手口や物置、井戸、各部屋の窓には「とんぼ」を飾っていたと教えてくれました。

屋台には、榊をつけた「とんぼ」と、台所に飾った黒松と榊の「こうじんさん」も並んでいます。いずれも、お祓いなどに使う榊を使っているのが特徴で、これも内宮前である宇治地区独特ではないかと森田さんはおっしゃいます。今では森田さんだけが手作りするだけですが、去年から販売するにあたって、知人に「内宮前宇治飾り」と名付けてもらったとか。神宮の山の木の正月飾りを飾る、それこそ内宮前の新年の準備です。

文　千種清美

伊勢内宮前 おかげ横丁